

第5回学校運営協議会の記録

日時	令和2年1月31日（金）10:00～13:00	場所	祇園小会議室
出席者	熊田委員、鹿倉委員、羽入委員、浅和委員、吉住委員、石川委員、服部委員、大貫地域学校協働活動推進員 谷田部校長、膝附教頭（司会）、村上教務主任（記録）、熊倉地域連携教員		
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員による学校評価の結果と改善策 ・校長室通信「ぎおんばら」第11号 ・令和2年度学校経営計画（案） 		
<p>1 会長挨拶 1年間、ありがとうございました。本日も活発なご意見をよろしくお願いします。</p> <p>2 校長挨拶 1年間大変お世話になりました。たくさんのご意見、解決策等いただき、また、実際に動いていただいて、一歩も二歩も進むことができました。充実した学校運営協議会となったことに感謝します。本日は1年間の総括と来年度に向けての話になりますが、忌憚のないご意見をいただければと思っています。よろしくお願いします。</p> <p>3 協議</p> <p>(1) 教職員による学校評価の結果と改善策について</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>教頭による説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・58項目ある中で一番低かったのが⑬「心身の健康の維持・増進のため、勤務時間やメンタルヘルス等に留意している」の79.5点だった。昨年度比15.4点増加した。その他、昨年度低かった⑨「各自、担当校務分掌の効率化を目指し、業務内容の精選に努めた」⑩「キャリア教育を通して、児童が勤労精神とともに自立に必要な能力を高められるよう努めた」は、どちらも85点を超えるなど、改善傾向が見られた。 ・⑬が今年度の課題。改善策について教職員から出された意見をまとめると、 【心がけ】退勤時刻を意識する。（現在、遅くとも8時までに退勤している） 【仕事量】仕事を減らす。分担する。 【職場環境】コミュニケーション。声かけ、相談する。レクリエーションを行う。 ・前回の保護者・児童アンケートで低かった項目⑧「挨拶や返事がよくできる」の改善策として、教師側から挨拶する。できている児童を褒める。登校班長に「班長バッチ」を配り、自覚をもたせる。などが出された。②「学校では、いろいろできるようになり、自信を持って過ごすことができる」については、小さいことでも褒める。努力の過程を褒める。子ども同士認め合う雰囲気づくりをする。など。⑩「やらなければならないことは最後まで頑張ることができる」については、見える形で褒める。やらなければならないことを具体的に示す。などがあげられ、これをまとめると【教師が手本】【褒める】【見える形で評価、保護者にも伝える】がキーワードになる。 </div>			

- (浅和) ⑧については、岐阜県では部活動指導を民間の人とタイアップしている学校があることを新聞で読んだ。民間に任せるのは心配な面があると思うが、2人顧問がいたら交代で出るようにすれば先生に余裕が生まれる。心の余裕がないと、子どもに向き合う気持ちが薄れるのではないか。
- (石川) 民間の人が教育現場に入るとなると、学校の決まりを理解していただくなど、人材育成が必要になる。コーディネーターがいて、学校との細かな調整や準備等までやってもらえると、学校の負担軽減になるかもしれない。
- (熊田) 栃木市にはそのような人がいると聞いた。市の生涯学習文化課がそこを担うことになると思うが。学校運営協議会の次の方向性としていければと思う。
- (吉住) 民間の力を借りることは賛成である。先生たちがこんなに遅くまで仕事をしているのが問題だ。内側から改革する必要もある。
- (谷田部) 昨年度から今年度にかけて行事や教育活動、校内組織の見直しを行った。今年度も、校務運営委員会で話し合ったり、教職員からアンケートをとって意見を吸い上げたりした。なくす、減らす、やり方を変えるなど、方向性を示した。教職員は「今までやっていたから」「ほかの先生もやっているから」と、自分から変えようとしなない。こちらから提案したことが多い。意識を変えることも必要だ。
- (熊田) 昨年度と比べると、全体的に成果が上がっていると思われる。
- (服部) 同感である。どの辺を改善したからこんなに良くなったのかを明確にする必要もある。部活動については、担任以外の先生に教えてもらえて、子どもは楽しいし、自分の幅が広がるよさがあるが、自分が子どもの頃も先生は負担に感じていたのだろうか。業務がほかにもたくさんある中でやるのが負担なのか。やはり、今までと同じように何でも丁寧にやるのではなく、優先順位をつけたりやり方を変えたりする必要がある。保護者も「今までやってくれたのに」という考えはなくす。大変だということを保護者や地域に伝えて、学校全体がよくなるようにしていけたらいい。
- (谷田部) 「前の先生は」とか「隣のクラスでは」とか言われるのではないかと思って、変えられない先生もいる。だから先生たちから意見を収集して「これは止めましょう」とこちらから提案したものが多い。先生自身が意識を変えなければならない部分はある。
- (熊倉) 中学校と小学校の部活動は少し違う。中学校の部活動は、通年で、放課後がメイン。きちんと時間が設定されてある。長距離走のようなもの。小学校は、季節・時期に限定して行われ、放課後だけでなく昼休みや業間など、やれる時間を作ってやっている。クラスの児童と接する時間や問題が起きたときに対応する時間がもてず、常に担当は走り回っていて、短距離走のようなもの。結果を出すためにはもっとやりたいけれど、時間がないからできないジレンマもある。そこが負担と感じているところであろう。
- (服部) 部活動の担当は、学級担任でなければならないのか。支援員がメインにやれないのか。
- (谷田部) 労働条件が違うし、責任がとれないので難しい。
- (熊田) 学校の規模が小さくなって、担任を持たない先生は減っている。音楽に関しては、音楽専門の先生が配置されないことがある。子どもも部活動を掛け持ちしていて、

単学級の学校では、先生だけでなく子どもも大変だという声はよく聞かれる。こういう会で学校の実情を聞いて、それをホームページに載せるのも意味があることではないだろうか。

(膝附) 昨年と比べて良くなったのは、(業務改善はしたが) 激減したのではなく、職員室の雰囲気がいいからだと思う。

(羽入) 先生方の仲が良いと聞くと、保護者もありがたく思う。それが子どもたちに反映されるので、忙しい中でも和気藹々とやっているのは理想的だと思う。

(膝附) 何でも話せる雰囲気ができている。声かけがキーワードだと思う。

(熊田) メンタルヘルスの項目で、職場の雰囲気がいいのは強みだ。

(鹿倉) 子どもは敏感なので、先生がギスギスしているとすぐに感じる。仲の良い関係について、身をもって子どもたちに示しているのは、子どもも保護者も安心できると思う。

(熊田) 4枚目の「保護者からの意見」については、挨拶があまりよくない。大人がどんなときでも言えるというのがいいのだが。学校の中では挨拶しているのではないか。

(谷田部) 自分でも、スクールガードのベストを着ているときは、知らない人にも挨拶できるが、着ていないときはどうか。ちょっと難しいと思う。

(熊田) 近所では、知らない人には挨拶していないのかもしれない。でも、朝の集団登校ではよく挨拶してくれている。

(2) 来年度の学校経営の基本方針について

校長による説明

○校長室通信「ぎおんばら」第11号に載せた保護者・児童アンケート結果から

課題

- ①「子どもは、学校で楽しく、安心して過ごしている」が減少
- ②「子どもは、学校でいろいろできるようになったことで、自信をもって過ごしている」が減少
- ⑩「お子さんは、やらなければならないことを最後まで頑張ることができる」で、保護者と子どもとの差が大きい

成果

- ⑫「子どもの成長のために、学校と保護者・地域が協力し合っている」が上昇

○「令和2年度学校経営計画(案)」について ※変更した点・強調した点

ア スローガン

- ・「全職員が一丸となり」⇒「学校・家庭・地域が一丸となり」

イ 学校経営方針

- ・教職員の意識として「そろえる」「つながる・つなげる」を追加

※先生によって指導が違ふと子どもが迷う。揃えるところは揃える。

学習内容の縦のつながり(系統性)、横のつながり(教科横断的)を意識する。

人と人とのつながり、交流を大事にする。

ウ 努力点及び具体策

- ・学習規律や学習方法をそろえる「祇園小スタンダード」の活用

- ・「家庭学習カード」を活用した自主学習の充実
- ・学習ボランティアとの協働
- ・児童同士の考えをつなぐ教師のコーディネート力の向上
- ・児童の自主性・創造性を育む特別活動 自己決定の場、成就感を味わえる工夫
- ・自己理解を高める児童指導・教育相談
- ・周囲の児童とのよりよい人間関係を構築し、互いに育ち合う特別支援教育の充実

(浅和) 今の子どもたちが日本を作る人材になるので、その基本を小学校で育ててほしい。そのためにも、先生たちが余裕を持てるような状況になればと思う。祇園小は、良い教育をしていると思う。

(熊田) 自己理解とか自己決定できる子を育てるということを入れていただいているのはありがたい。

(谷田部) 日本人の子どもは自己肯定感が低いと言われている。これだけグローバルな時代になると、日本の子どもも外国人と一緒に仕事をするようになるが、どんどん自己主張する外国人の中で、自己主張できない日本人は生きていけるのか。そういう意味で、自己肯定感をあげなければならないし、自己理解や自己決定の力を育てていかなければならないと思う。自分の意見が合っている間違っているに係わらず、自分から言おうとする感覚を小学生の時から途切れなく貫いてほしい。

(3) その他

ア P T A活動の見直しについて

(服部) 前回P T A会長から話があったと思うが、共働きの家が増えてきたため、役員の負担を減らして、より多くの人に参加できるものにしたと考え、P T A役員の活動に対するアンケートをとった。ボランティア活動に参加するのも役員活動の一環とし「一人一役」やる方向へもっていきかけたが、賛成38%、現行のままがいい37%、反対12%。賛成のほとんどが上学年だった。今後のP T A活動については、みんなで行うのがよい34%、決められた人で活動するのがよい46%だった。これを踏まえて、来年度は一人一役でなく、役員的人数を減らして、その他はボランティアに協力していただくことにする。地域の方にP T Aのオブザーバー的な協力をいただく件だが、子どもたちの登下校のときに見守っていただくほか、何ができるのかを相談しながら一緒にやれたらと考えている。

(吉住) 役員は、ずっとやるわけではないので、子どもの在学期間だけでも一生懸命やればよいと思う。私たちグリーンクラブは、地域の応援団という立場なので、何かあるときには協力したい。スクールガードも、P T Aからの熱意が伝われば、やってくれる人はたくさんいると思う。

(服部) フルタイムで働いている人は4割弱。周りでフォローしても足りない部分を地域の方に協力していただければと思っている。一番大切なのは、子どもの見守り。時間的に行けない、見られない人が多い。いつも知っている人が少しでも出てくださいっていると、安心だと思う。「夜回り先生」も言っていたが、声をかけてくれる人がいるだけで元気になるし、目が多ければ多いほど問題の発見にもなる。目指すところは、子どもを見守る温かい街、よい学校づくり。具体的な案を持って、相談に伺いたい。

(熊田) 地域にもっとアピールしないといけない。PTAと地域のすりあわせが来年度の課題で、もう少し地域がやれることを探していきたい。

(谷田部) PTAの方は、仕事を持っている人は大変だと思うが、大変だったけどやって良かったということもある。参加してみなければ分からない。義務や強制でも、年1回は協力するとか、やれる範囲でいいので参加するとか、そういうきっかけも必要だと思う。第一歩を自分から踏み出す勇気がない人がほとんどなので。

4 大貫地域学校協働活動推進員から

子どものアンケート結果から。挨拶を毎日やり続けることは財産になる。社会人になっても、習慣は忘れない。大切だと思うことはやり続ける子どもを育てたい。地域の方は、大人としての先生。そういう方から挨拶やことばかけをしてもらおうと、いい学びになる。

学校経営計画に書いていることは、大人社会でも大切な部分だと思う。一人一人の良さを認め合いながら力を合わせて楽しい学級、学校づくりをする、これは地域に置き換えてもいい。みんなで力を合わせて楽しい地域づくりをする。

学校と地域とのコーディネーターの件については、学習支援や図書ボランティアの活動情報を集めて、一つのチームを作れば、教師も少しは楽になるのではないか。自分も係わらせてもらいたい。

以上で、今年度の学校運営協議会は終わりになります。委員の皆様には、貴重な意見をたくさん寄せていただくほか、それを実現するために様々な場面で支えていただきました。たいへんありがとうございました。

祇園小学校長 谷田部 二三子

